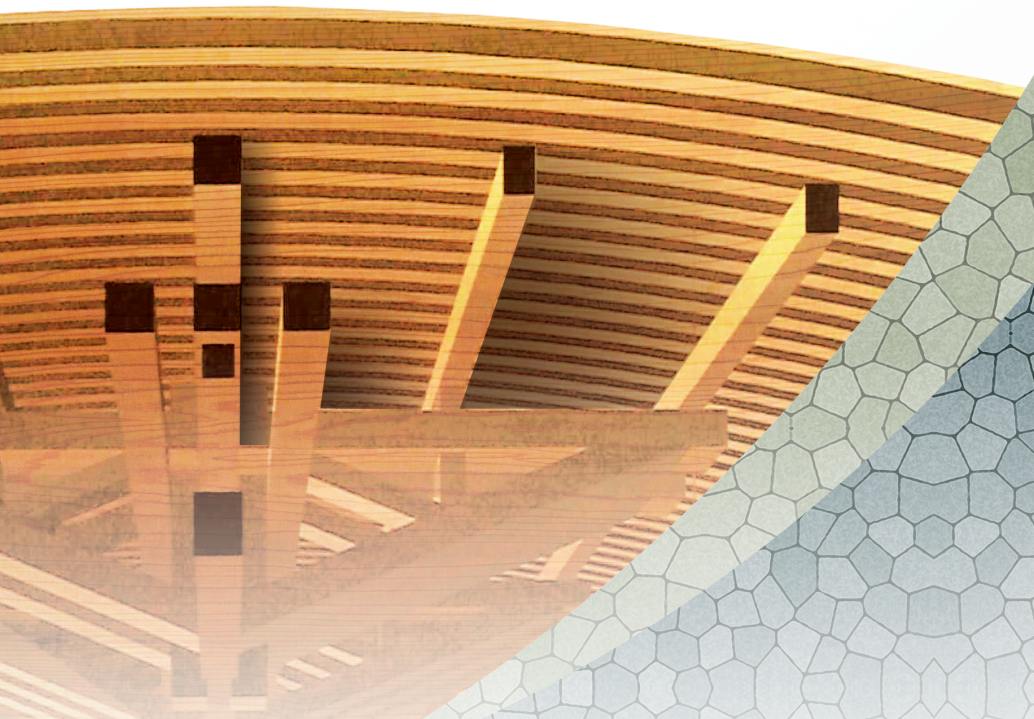
第５章　事業の取り組み



5-1　環境影響評価

本事業は、熊本県環境影響評価条例（平成12年６月１日公布、平成13年４月１日施行）の対象事業（鉄道;長さ５km以上）であった。そこで、条例施行に先行して手続きを開始、実施した。

実施にあたっては、熊本県環境影響評価条例、同施行規則及び熊本県環境影響評価技術指針に則り進めた。

表5-1　環境影響評価手続きの概要

手続き	内容・期間
方法書	● 公告縦覧　;H12.12.22～H13. 1.22 ● 審査会(1)　;H13. 2. 2（現地視察） ● 審査会(2)　;H13. 4. 6（方法書の審査） ● 知事意見　;H13. 4.19（調査、予測及び評価の方法に関する意見）
準備書	● 公告縦覧　;H14. 9. 4～H14.10. 3 ● 地元説明会 ;H14. 9.24～H14.10. 2（7回） 9.24 池田校区、9.25 花園校区、9.26 一新校区 9.27 五福校区、9.30 春日校区、10.1 古町校区 10.2 白坪校区 ● 審査会(1)　;H14.10.10（準備書の審査） ● 審査会(2)　;H15. 1.14（準備書の審査） ● 公 聴 会　;未開催（開催申出なし） ● 知事意見　;H15. 1.22（準備書に関する意見　※別記）
評価書	● 公告縦覧　;H15. 3.19～H15. 4.18
事後調査報告書	事業終了後

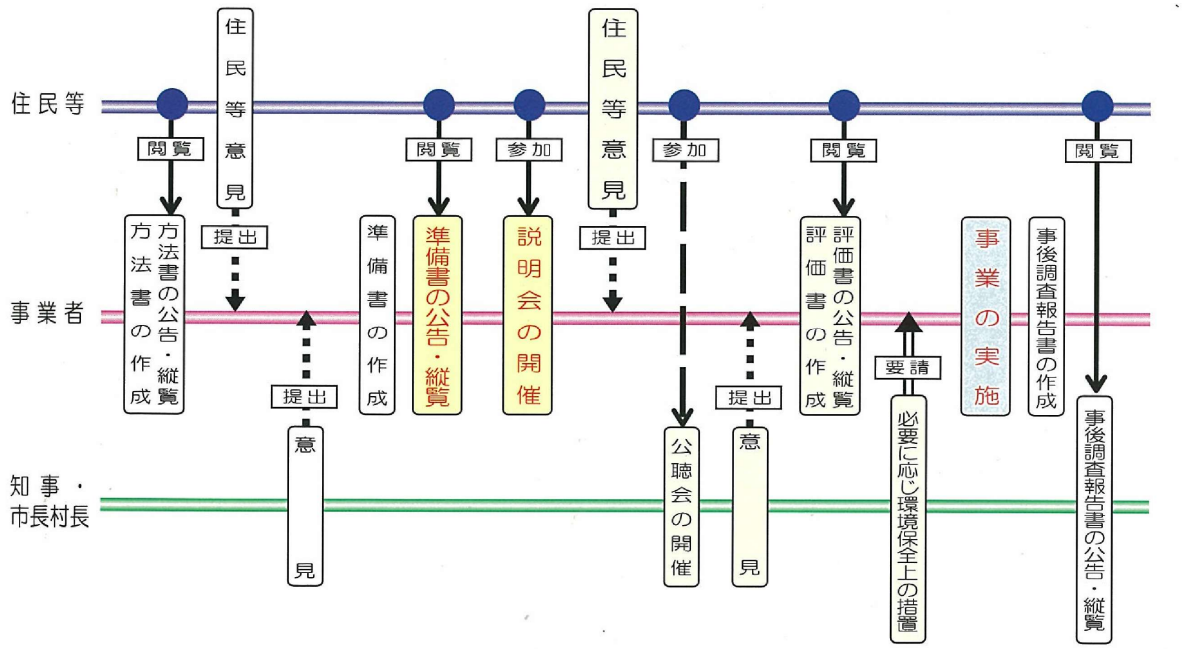


図5-1　環境影響評価手続きの流れ

環境影響評価の項目は、事業特性及び地域特性を考慮して選定した。

表5-2　環境影響評価の項目（環境影響要因と環境要素の関連）

影響要因の区分 ＼ 環境要素の区分		大気質	騒音	振動	水象	水質	地下水	地形及び地質	日照阻害	電波障害	動物	植物	生態系	景観	人と自然との触れ合いの活動の場	廃棄物等	文化財
工事の施工中	建設機械の稼働	●	●	●													
	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	●	●	●													
	切土工等又は既存の工作物の除去					●	●				●	●	●			●	
工事の完了後	鉄道施設の存在（土地の改変）						●		●	●	●	●	●	●	●		●
	車両の走行		●	●													

環境影響評価準備書に対して熊本県知事意見が出され、事業の実施にあたっては、これに留意するとともに、環境保全措置（ロングレールの採用、低騒音型建設機械の採用、工事の分散等）の実施、事後調査（騒音・振動調査、地下水調査等）を進めていった。

【環境影響評価準備書に関する熊本県知事意見（抜粋）】

［大気環境］
＜振動・騒音＞
① 本事業において振動・騒音は、重要な環境要素である。今後、具体的な設計や事業実施に当たっては、可能な限りその影響の低減に努める必要がある。
　なお、工事実施時や列車の仮線走行時及び供用後の調査を実施し、環境への影響が著しいと認められた場合、更なる環境保全措置を検討する必要がある。

［水環境］
① コンクリート工事による河川や地下水へのアルカリ排水の影響が生じないようにするため、工事実施に当たっては、入念な施工管理を実施するとともに調査を実施し、環境への影響が著しいと認められた場合、更なる環境保全措置を検討する必要がある。

［土壌に係る環境その他の環境］
＜地盤沈下＞
① 事業実施区域には軟弱な地盤が存在しているため、今後、具体的な設計や事業実施に当たっては、地盤沈下に十分留意して行う必要がある。

［動物・植物・生態系］
① 生育地が縮小又は消失するカワジシャとホウライシダの移植については、専門家の意見を参考に慎重に検討する必要がある。
② 鉄道と交差している水路で、全国的に絶滅の危険が増大しているメダカが確認されている。水路の付け替えに当たっては、多自然型工法を用いるなど、その生息について十分配慮する必要がある。

［景観］
① 今後、具体的な設計や事業実施に当たっては、更に圧迫感の低減や周辺景観との調和を図り、できる限り環境影響を低減できるよう、関係機関と十分協議する必要がある。

［文化財］
① 埋蔵文化財の試掘に当たっては、熊本県教育庁文化課及び熊本市の教育委員会と十分協議する必要がある。
② 上熊本駅本屋をはじめとして、熊本県近代化遺産として挙げられている建築物は、景観資源、歴史的・文化的資源として重要なものである。関係機関と協議し、移築や記録等の利活用について検討する必要がある。

［その他］
① 本事業の実施区域周辺では、九州新幹線整備、熊本駅西土地区画整理、都市計画道路等の事業が計画されている。本事業は、これらの事業と関連することから事業実施に当たっては、関係機関等と十分協議し、工事の時期等や工事用車両の走行ルートを分散するなど、振動・騒音等の環境への影響低減に十分配慮する必要がある。

5-2　埋蔵文化財調査

本事業地に近接して埋蔵文化財包蔵地がある。事業の実施にあたっては、文化財保護法に則って適切に協議し、調査等を行った。

表5-3　事業に係る主な埋蔵文化財包蔵地

遺跡名	概　要	所在地	調査実施
北島遺跡群	弥生時代～中世	池田４丁目	－
熊本城跡遺跡群	古墳時代～近世	古城、古京、千葉城町	本調査(記録保存)
新馬借遺跡群	古墳時代～平安時代	新町３丁目	本調査(記録保存)
花岡山・万日山遺跡群１区	古墳時代	横手町、春日町	本調査(記録保存)
花岡山・万日山遺跡群２区	古墳時代		本調査(記録保存)
二本木遺跡群（熊本駅部）	縄文時代～中世	二本木１・２丁目他	本調査(記録保存)
二本木遺跡群（田崎）	縄文時代～中世		本調査(記録保存)

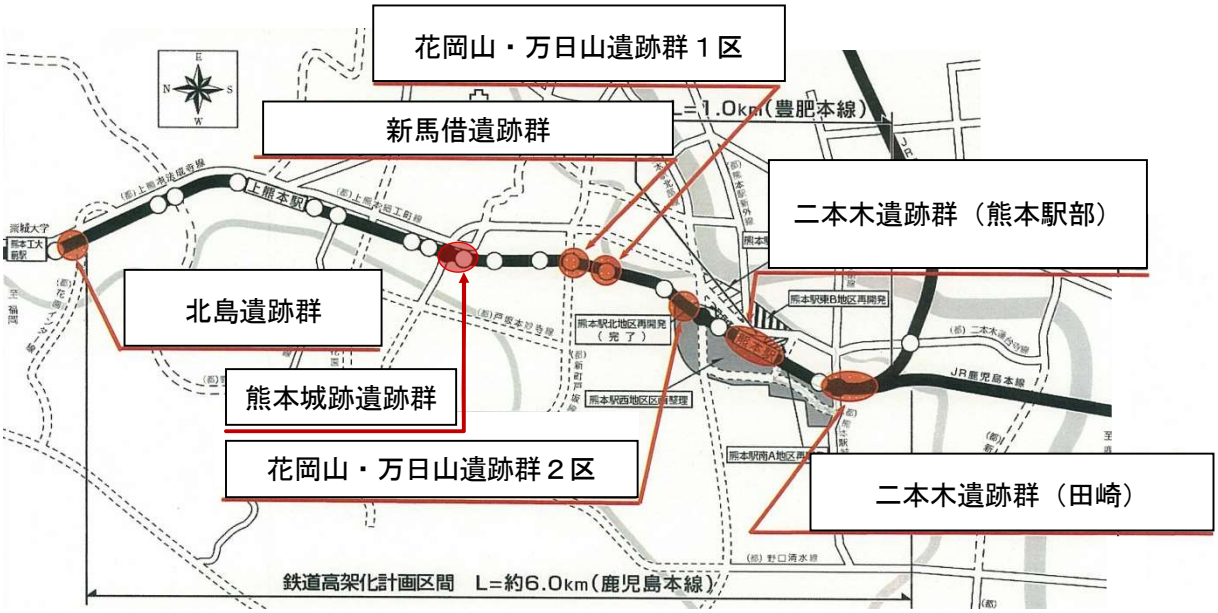


図5-2　埋蔵文化財包蔵地　調査位置

平成23年（2011年）、高麗門踏切付近～下馬天神踏切付近における試掘及び確認調査の結果、熊本城に関連する高麗門遺構、堀（土手）・桁橋、御成道（参道）が発見された。学識経験者による検討委員会を設置し、文化財としての歴史的評価と価値が判断された結果、これらは重要な遺構群であり、「国民共有の財産として永く保存すべき対象である」と勧告された。

それに対応し、高架橋構造の変更が生じた。また、発掘調査により工事工程への影響があった。

【発見された遺構と評価】

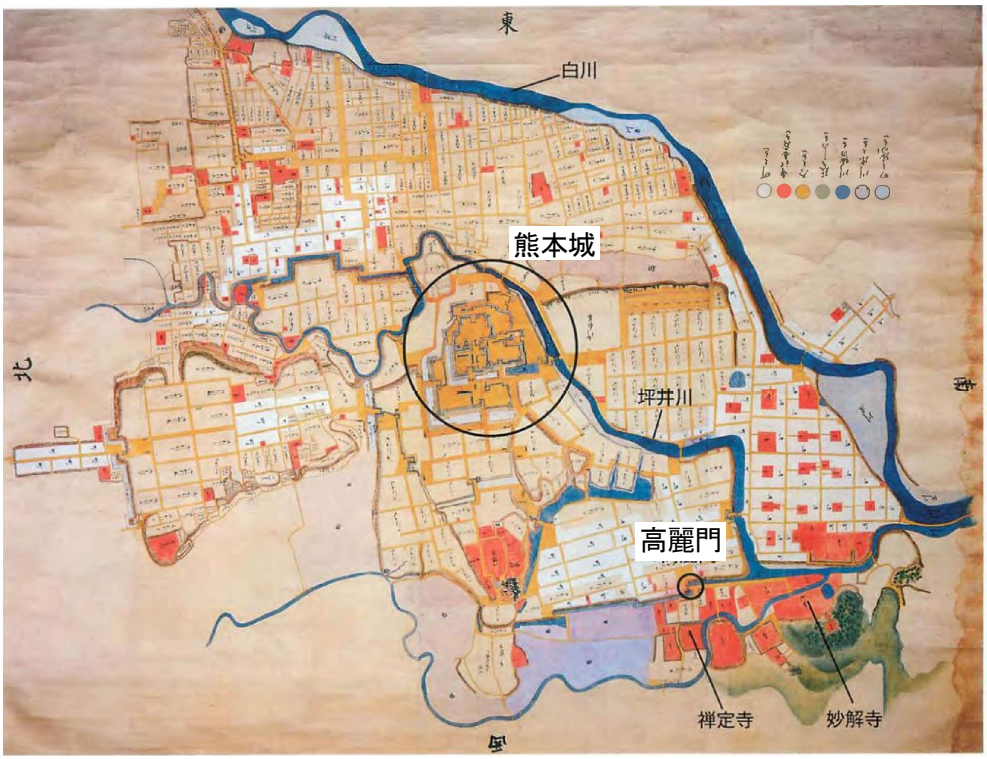
［遺構］

- 高麗門：江戸時代、加東清正公が建造させた熊本城門のひとつ
- 堀（土手）・桁橋：熊本城域と外界を画する存在
- 御成道：藩主及びその一族他が眠る菩提寺への参詣道

［評価］

「高麗門・桁橋を経由して、御成道（参道）を利用した各寺院への参詣の姿を、検出された一連の遺構が示しており、セットとして発見された意味は大変大きい」

「国民共有の財産として永く保存すべき対象である」

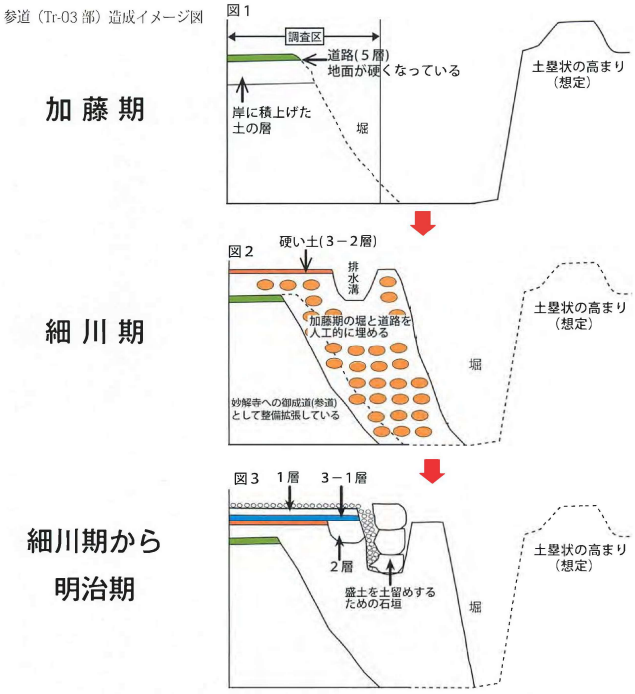


注　：熊本博物館蔵;文政2年（1819年）以前
資料：花岡山・万日山遺跡群第2次調査概要（平成24年11月　熊本県教育委員会）

図5-3　熊本城・高麗門の位置

資料：熊本城跡遺跡群
（平成26年3月　熊本県教育委員会）

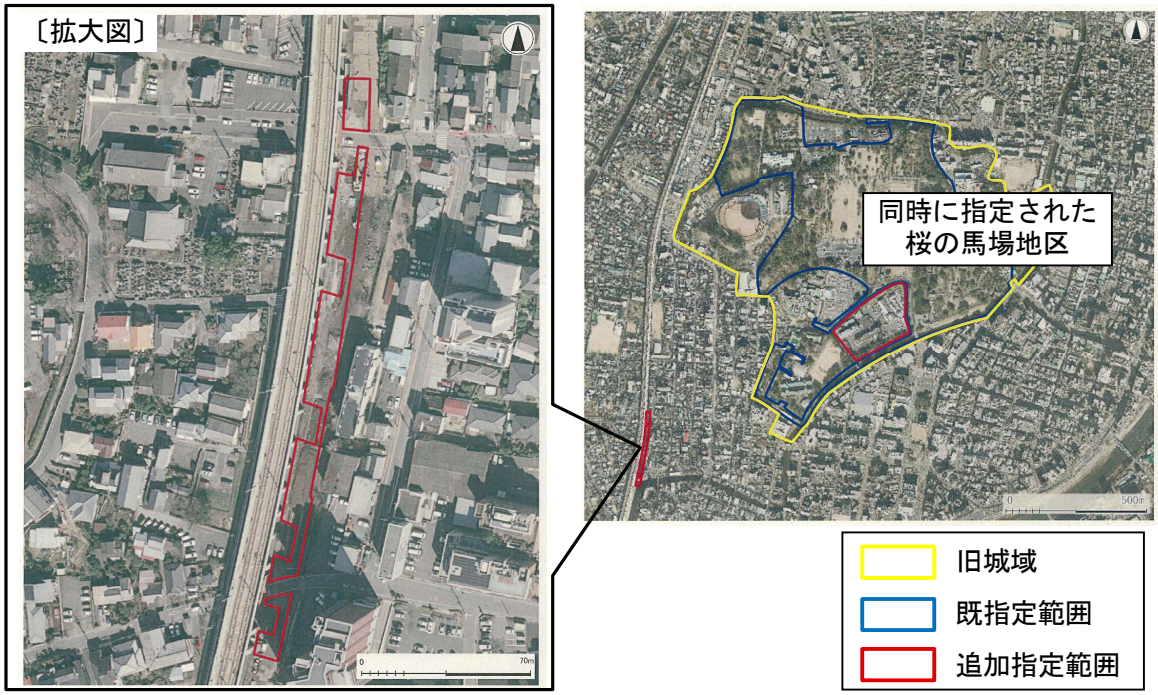
図5-4　高麗門調査区遺構



資料：花岡山・万日山遺跡群第2次調査概要
（平成24年11月　熊本県教育委員会）

図5-5　参道造成イメージ図

本遺構は、国の文化審議会を経て、平成30年（2018年）６月に特別史跡熊本城跡に追加指定された。



資料：熊本市

図5-6　特別史跡熊本城跡 追加指定範囲

5-3　地元説明・広報

5-3-1　事業説明

事業を推進するにあたっては、様々な場面で地元説明会（都市計画事業に関する説明会、工事に関する説明会　など）を開催した。

表5-4　事業に係る主な説明会

時　期	説明内容
平成12年 1月～ 3月	連立事業・新幹線事業の事業概要（測量立入り）
平成12年 8月～10月	連立事業都市計画案（４㎞区間）
平成13年 6月～ 7月	連立事業・新幹線事業の事業概要（４㎞区間）
平成14年 2月	連立事業・新幹線事業の概要（４㎞区間）
平成14年 7月～ 8月	連立事業都市計画案（２㎞延伸区間）
平成17年 5月～ 6月	一次仮線工事の概要
平成17年 6月	熊本駅周辺都市計画事業等の概要
平成17年 6月～ 7月	連立事業・新幹線事業の事業認定
平成17年12月	連立事業・新幹線事業の工事説明会
以後、随時	連立事業・新幹線事業の工事説明会

また、事業に関するパンフレットを作成、配布するとともに、熊本県熊本駅周辺整備事務所等のウェブサイトでは、連続立体交差事業を始め関連事業に関する記事、情報等を載せ、事業内容及び進捗状況等の周知に努めた。

【ウェブサイトによる案内】

熊本県熊本駅周辺整備事務所 ⇒ 連立事業の概要、進捗状況、お知らせ　等
熊本市熊本駅周辺整備事務所 ⇒ 周辺事業の概要、進捗状況、お知らせ　等
ＪＲ九州 ⇒ 関連開発の概要、お知らせ　等
鉄道・運輸機構 ⇒ 新幹線事業の概要、お知らせ　等

5-3-2　供用開始に関するイベント

(1) ＪＲ鹿児島本線高架開業記念レールウォーク（平成27年３月１日）

平成27年（2015年）３月14日、鹿児島本線北側４km上下線・熊本駅部４km上り線の高架橋が供用開始となるにあたり、記念レールウォークが行われた。

【記念レールウォーク】

- 開催日：平成27年3月1日（日）
- 区　間：約１km
- 参加者：約1,800人

レールウォーク

(2) ＪＲ鹿児島本線高架開業及び上熊本駅舎落成記念式典（平成27年３月14日）

鹿児島本線北側４km上下線・熊本駅部４km上り線の高架橋供用開始と併せて、上熊本駅舎及び熊本駅上り線ホームも同時に開業した。供用開始にあたり、記念式典が行われた。

【記念式典】

- 開催日：平成27年3月14日（土）10時00分～
- 次　第
  - ①高架開業記念式典（場所　上熊本駅高架下）
    - ・主催者挨拶、来賓祝辞、来賓紹介、一日駅長任命式
  - ②高架開業記念出発式（場所　上熊本駅ホーム）
    - ・列車出発（10時57分発　八代行列車）
  - ③上熊本駅舎落成式（場所　上熊本駅舎前）
    - ・くす玉開花
- 主な出席者
  - ①主催者：熊本県知事、熊本市長、ＪＲ九州代表取締役社長
  - ②来　賓：国会議員、国土交通省、熊本県議会議員、熊本市議会議員
    各種関係団体、自治会関係者

記念式典

高架線路 発車オーライ

ＪＲ鹿児島線 先行の６キロ区間

上熊本新駅舎も落成

ＪＲ鹿児島線の連続立体交差（高架化）事業で、熊本駅以南の下り線を除く先行区間が14日開業し、在来線列車が高架線路の走行を始めた。上熊本駅新駅舎の利用も始まり、記念式典があった。

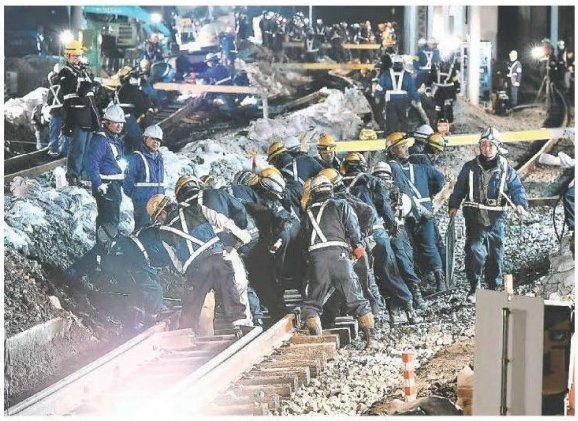
上熊本駅舎落成式でくす玉を割る関係者
＝14日午前11時すぎ、熊本市西区（谷川剛）

高架化の対象区間は熊本市の鹿児島線6キロと豊肥線1キロ。今回はこのうち鹿児島線上り全線と、下り線の熊本駅北側4キロが先行開業した。高架化区間の踏切15カ所のうち13カ所が廃止され、交通渋滞や市街地分断の解消などが期待される。

上熊本駅の新駅舎は水戸岡鋭治氏のデザイン。駅舎正面の風よけ（幅約100メートル）に県産ヒノキを使い、「森の都」を表現した。

式典には県と市、ＪＲの関係者や地元住民ら約250人が出席。蒲島郁夫知事が「高架化は一帯の拠点性の向上に役立つ。残りの工事や熊本駅整備も成功させたい」と述べた。

一口駅長に任命された花園小6年の中島新太さんと池田小6年の芹川美依奈さんが、2階の新ホームで〝出発宣言〟。駅舎前では蒲島知事や大西一史市長らがくす玉を割って祝った。熊本駅上り線の新ホーム（4～6番線）も開業した。



未明に行われたＪＲ鹿児島線の高架化切り替え作業。新幹線高架下を走る仮設線を人力で、左の高架につながる線路につなぎ替えた＝14日午前0時すぎ、熊本市西区池田の北島踏切付近（岩下勉）

線路の切り替え作業は同日未明、崇城大そばの北島踏切付近など3カ所であり、約700人が人力でレールを動かすなど、分刻みの作業に追われた。

高架化は県が事業主体となり01年に着手。残り区間の開業は18年春、熊本駅新駅舎の全面開業は19年春の予定。総事業費は606億円。（内田裕之）

熊本日日新聞　平成27年（2015年）3月14日夕刊

総勢700人 未明の大作業

県が進めているＪＲ鹿児島線６キロの連続立体交差（高架化）事業は14日、熊本駅以南の下り線２キロを除く先行区間が開業。在来線の列車が高架線路上を走り始めた。同日未明には大規模な線路切り替え作業があった。

鹿児島線の高架化区間は崇城大前の北島踏切から熊本駅南側の坪井川橋りょうまで。今回は上り線６キロ全線と、下り線の熊本駅北側の北岡自然公園付近までの４キロが開業した。

切り替え工事は13日深夜から14日未明にかけ、北島踏切付近▽下り線がいったん地上に下りる北岡自然公園付近▽熊本駅南側の百貫踏切付近―の３カ所で実施。総勢約700人が古いレールを切断したり、新しいレールに付け替えたりする作業に追われた。

18年春には残り区間と豊肥線の１キロ（熊本駅―坪井川橋りょう）も開業する予定だ。

（文・森紀子、写真・岩下勉、谷川剛）

写真 くまにちプラネット

高架橋快走

高架化された熊本駅－上熊本駅間を走るＪＲ在来線の上り列車＝14日午後、熊本市西区の北岡神社付近

切り替え完了

新幹線高架下を走る仮設線から、左の高架に繋がる線路につなぎ替えられたＪＲ鹿児島線＝14日朝、熊本市西区の北島踏切付近

人海戦術

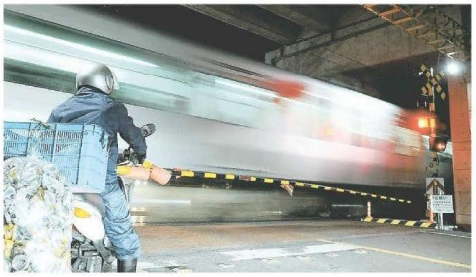
未明に行われたＪＲ鹿児島線の高架化切り替え作業。新幹線高架下を走る仮設線を人海戦術で、左の高架に繋がる線路につなぎ替えた＝14日午前０時すぎ、熊本市西区の北島踏切付近

最後の地上走行

ＪＲ鹿児島線の高架化前日、新幹線下の仮線の軌道を走る最後の上り列車＝13日午後11時40分ごろ、熊本市西区の北島踏切付近

さらば踏切

高架化前日のＪＲ鹿児島線、本妙寺踏切の遮断器＝13日夜、熊本市西区



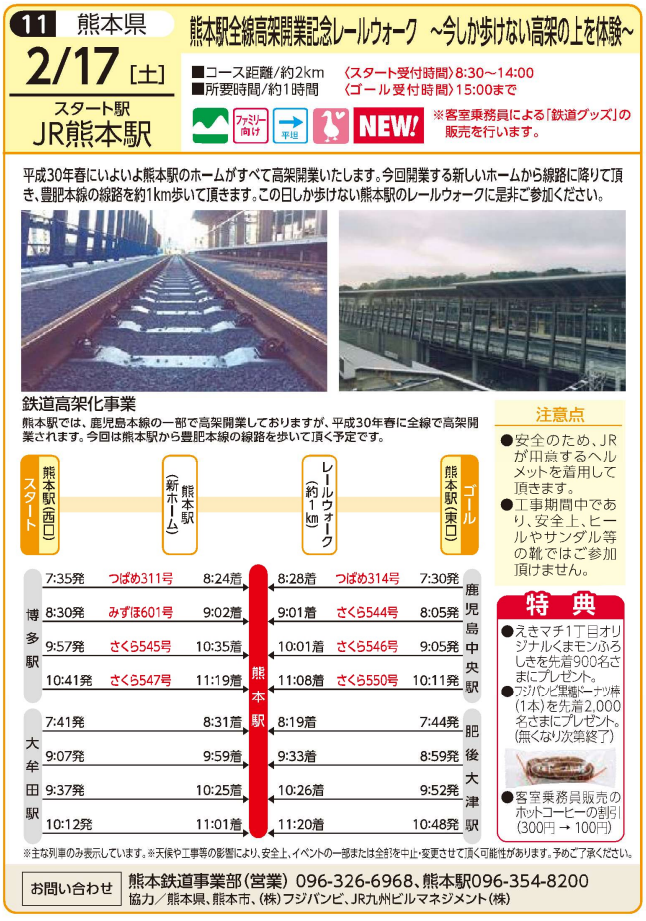
熊本日日新聞　平成27年（2015年）3月15日朝刊

(3) 熊本駅全線高架開業記念レールウォーク（平成30年２月17日）

平成30年（2018年）３月17日、全線の鉄道高架化が完了、供用開始となるにあたり、記念レールウォークが行われた。

【記念レールウォーク】

- 開催日：平成30年2月17日（土）
- 区　間：約１km
- 参加者：約5,200人



資料：九州旅客鉄道株式会社

資料：九州旅客鉄道株式会社

レールウォーク

(4) ＪＲ鹿児島本線・豊肥本線熊本駅全線高架開業記念式典（平成30年３月17日）

全線の高架橋供用開始にあたり、記念式典が行われた。

【記念式典】

- 開催日：平成30年3月17日（土）5時24分～
- 次　第
  - ①出発式（場所　熊本駅1番のりば）
    - ・列車出発（5時24分発　肥後大津行列車）
  - ②開業記念式典（場所　熊本駅コンコース）
    - ・主催者挨拶、来賓祝辞、来賓紹介、祝電披露、くす玉開放
- 主な出席者
  - ①主催者：熊本県知事、熊本市長、ＪＲ九州代表取締役社長
  - ②来　賓：国会議員、国土交通省、熊本県議会議員、熊本市議会議員
    自治会関係者

案内ポスター

記念式典

ＪＲ熊本駅周辺在来線 高架化 全6キロ完了

乗降客で混雑する高架化した在来線のホーム＝17日午前、熊本市西区のＪＲ熊本駅（高見伸）

熊本市中心部のＪＲ鹿児島線と豊肥線の６㌔区間で県が進めてきた連続立体交差事業は17日、未完成だった熊本駅一帯（同市西区）２㌔区間を含む全区間の高架化が完了した。高架下には商業施設「肥後よかモン市場」も開業した。また、ＪＲ九州は利用の少ない路線の運行本数を削減するなどのダイヤ改正を実施した。【３、17、29面に関連記事】

地域一体化 活気に期待

午前5時24分、蒲島郁夫知事、大西一史熊本市長らの合図で、高架ホームから1番列車が熊本駅を出発。その後の記念式典で、蒲島知事は「高架化で分断されていた地域が一体化した。駅前のにぎわいを生み、熊本地震からの創造的復興を目指す」とあいさつ。関係者らがくす玉を割って完成を祝った。

16日深夜から17日午前5時ごろまで、同駅の南約1㌔地点で豊肥線と鹿児島線下りの既存線路を高架に切り替え。16カ所あった踏切も201 5年に撤去した13カ所以外の残る3カ所をなくした。

これまで地下にあった同駅の白川口（在来線側）と新幹線口を結ぶ通路を1階部分に設置。在来線のホームは全て高架になった。

「よかモン市場」はこれまで新幹線口にあった「えきマチ1丁目」を在来線側に拡張し、店舗数は60に倍増。開業式典後は早速、多くの観光客らでにぎわっていた。

21年春には白川口に地下1階、地上12階建ての駅ビルが完成予定。同市西区でホテルを経営する柳タミさん(71)は「活気が出て観光客も増えるはず。博多駅に負けていられない」と笑顔だった。（植山茂）

熊本日日新聞　平成30年（2018年）3月18日朝刊

(5) 熊本駅舎完成記念式典（平成31年３月16日）

全線高架化完了後も整備が進められていた、新しい熊本駅舎の完成を迎え、記念式典が行われた。

【記念式典】

- 開 催 日：平成31年3月16日（土）8時30分～
- 開催場所：熊本駅白川口駅前広場
- 次　　第

  オープニングセレモニー、主催者挨拶、来賓挨拶、来賓紹介
  安藤忠雄氏 ビデオメッセージ、くす玉開放

- 主な出席者

  ①主催者：熊本県知事、熊本市長、ＪＲ九州代表取締役社長
  ②来　賓：国会議員、国土交通省、熊本県議会議員、熊本市議会議員
  　　自治会関係者

記念式典